



Bーぐる沿線協議会ニュース

第6号

平成25年1月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

元田会長を再任して、新たなスタート

12月11日にBーぐる沿線協議会が開催され、平成23年度のコミュニティバス運行事業の報告と「Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業」の中間報告が行われました。

沿線協議会委員の任期満了に伴い、目白台・小日向ルート沿線企業・団体からの委員や公募委員の充実を図り、26名体制のもと岩手県立大学元田先生を会長に再任して新たなスタートを切りました。

会議の冒頭、平成23年度の事業実績に関して、千駄木・駒込ルートの乗車人数はコンスタントに一日1,400人前後で安定的に推移、一方の目白台・

小日向ルートも開業当初は一日700人に満たなかったが4月以降は800人前後となり、9月には一日あたり1,000人近くにまで増加していることが報告されました。



Bーぐるの一日あたり乗車人数

単位：人

	平成23年 12月	平成24年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
千駄木・駒込 ルート	1,312	1,285	1,346	1,405	1,466	1,393	1,451	1,410	1,350	1,407
目白台・小日向 ルート	448	644	770	763	791	797	884	927	908	992

千駄木・駒込ルートで「Bーぐるチャンネル」放送開始

本協議会では「東京都新しい公共支援モデル事業」の助成を受け、平成23年度から2ヶ年にわたり「Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業」を実施しています。

沿線協議会では、Bーぐる（千駄木・駒込ルート）の車内に液晶モニターを設置し、沿線の地域情報を紹介する番組「Bーぐるチャンネル」を制作し放映する事業に取り組んでいます。



(写真左から) Bーぐるの車内に設置された液晶モニター、編集会議の様子、Bーぐるチャンネル(AGB隊が行く！)

跡見学園女子大学マネジメント学部芝原脩次ゼミと連携し、毎回学生が企画した内容を番組制作の専門家が助言する形で、取材から編集作業までを協働で進めています。こうして制作された番組が10月1日からBーぐるの車内で放送されています。さらに、平成24年9月に区報・チラシ・関連ホームページ等で募集した区民の「心に残るまちの風景」

にまつわる「コミかるた」の作品を映像化し、Bーぐるの車内で発表する予定です。

Bーぐるが沿線住民やBーぐるの利用者と沿線地域の「接点」となり、多様な「つながり」を提供することで沿線地域間の良好なコミュニティが創出されることが期待されています。

真砂市場と協働で「Bーぐる市」を開催

同じく「Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業」の一環として、本協議会では、11月17日に文京ボランティア・市民活動まつりにあわせて「Bーぐる」市を開催しました。

当日はあいにくの天候にもかかわらず2千人近くの来場者があり、真砂市場内各商店とのお買物スタンプラリーや「Bーぐる café」を出店する等、昨年以上の参加者でにぎわいました。

今年は、元田会長がBーぐるや全国のコミバス事情をわかりやすく解説する「やさしいコミバス講座」のコーナーや来場者が持っている情報を出し合う「Bーぐる沿線おすすめ情報マップづくり」、Bーぐる

るパンケーキの販売やBーぐるバスの工作教室等、盛りだくさんの企画で、Bーぐるや沿線協議会の活動をPRしました。



元田会長の「やさしいコミバス講座」



(写真左から) 大にぎわいのBーぐる市、Bーぐる沿線おすすめ情報マップづくり、協賛団体のPRコーナー

新キャラクターの愛称は「るぅ」に決定

目白台・小日向ルートの実行開始とともに誕生した「びいの妹」の名前が「るぅ」に決定しました。

区報や区ホームページを通じて寄せられた約100点の応募の中から、兄の「びい」と同じく

「びーぐる」の中から一文字を使用している点や子どもからも呼びやすく可愛らしいという点が評価され、全会一致で決定されました。



編集後記

今回から目白台・小日向ルート沿線の関係団体や公募委員が拡充され、にぎやかな会議になりました。新メンバーの方々は初めての出席でしたが、それを全く感じさせないほど会議の雰囲気溶け込んでいたのが印象的でした。「自分たちのコミュニティバスを良くしていきたい」という思いは同じ、と改めて感じました。(N)